

授業科目 社会福祉援助技術論Ⅰ

【担当教員名】 村 上 信		対象学年	2	対象学科	社会（介除く）
		開講時期	前期	必修・選択	必修
		単位数	2	時間数	30
【概要・一般目標：G10】 社会福祉の諸施策をサービス利用者にとって価値あるものにするために、福祉施策を具体化していく過程で不可欠な専門的社会福祉援助活動（ソーシャルワーク）で用いられる援助の方法・技術（社会福祉援助技術）に関する全体系を総合的に学ぶ。 社会福祉援助技術論Ⅰは、専門的社会福祉援助活動を担う専門職（ソーシャルワーカー）と社会福祉援助技術について、その意義、ソーシャルワークの体系、価値・倫理、展開過程、専門分化と総合化の現状と課題について学習する。					
【学習目標・行動目標：SB0】 1. 社会福祉の体系のなかでソーシャルワークが果たす役割や機能、社会福祉サービスとソーシャルワークの相互の関連を学び、その位置づけを理解する。 2. ソーシャルワークの発展過程を学び、ソーシャルワーカーのアイデンティティについて理解する。 3. ソーシャルワークの体系、基本原理・原則を理解する。 4. ソーシャルワーカーに求められる専門性と倫理、果たすべき機能について理解する。 5. 人権尊重、権利擁護、自立支援等の観点をふまえたソーシャルワークについて理解する。					
回数	授業計画・学習の主題			SB0 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	社会福祉サービスと援助活動の関係(政策・制度の体系と実践・技術の体系)				
2	社会福祉専門職と社会福祉援助活動(ソーシャルワーク)				
3	社会福祉援助活動(ソーシャルワーク)の目的と価値と倫理				
4	相談援助の構造と機能				
5	相談援助の基本原理・原則				
6	相談援助の過程－インテークの意義・目的・方法・留意点				
7	相談援助の過程－アセスメントとプランニングの意義・目的・方法・留意点				
8	相談援助の過程－支援の実施や社会資源の活用・開発の意義・目的・方法・留意点				
9	相談援助の過程－モニタリングの意義・目的・方法・留意点				
10	集団を活用した相談援助の構造と機能				
11	集団を活用した相談援助の展開過程				
12	ケアマネジメントの目的と概念				
13	ケアマネジメントの構成要素と過程				
14	事例分析を通して相談援助の実践を学ぶ				
15	まとめ				
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)	社会福祉援助技術論Ⅰ		福祉士養成講座編集委員会編集	中央法規	
	社会福祉援助技術論Ⅱ		福祉士養成講座編集委員会編集	中央法規	
参考書					
その他の資料		必要に応じてプリントを配布する			
【評価方法】 出席状況及び定期試験			【履修上の留意点】		